

2024年度のベンチャービジネス研究所の活動を振り返って

追手門学院大学 ベンチャービジネス研究所所長 経営学部教授 村上 喜郁

追手門学院大学 ベンチャービジネス研究所 所長の村上喜郁です。

2024年度は、もはや新型コロナ（COVID-19）の影響など感じさせない、明るい年となりました。株価の落ち込みや円安などもあったものの、日経平均株価は初の40,000円を越え、米アカデミー賞での『ゴジラー1.0』の視覚効果賞受賞、宮崎駿監督の『君たちはどう生きるか』の長編アニメーション賞受賞、また、『SHOGUN 将軍』がエミー賞史上最多の18部門受賞など、日本の映像文化が大きく評価されました。また、スポーツ分野におきましても、パリ・オリンピックで海外開催大会でのメダル獲得数最多を更新するなど、明るい話題にあふれた年だったのではないのでしょうか。

当研究所の活動におきましても、所員・研究員ならびに、学生研究員が素晴らしい成果を上げた年であったと自負しております。法学分野を中心とした「中核職員を対象とした研修プログラムの開発」を論題とし、研究を受託いたしました。そして、その成果の一部といたしまして「令和の地域金融機関管理職に求められるスキル向上プログラム」を実施することが出来ました。さらに、昨年度に刊行いたしました『大阪・北摂のガストロノミー：地域振興のための食資源』に関しまして、当研究所元所長 小西一彦先生主催の「北摂ベンチャー研究会」に多くの若手の所員が赴き、社会人向け5回の連続講演開催に協力いたしました。さらには、㈱サイネックス社、北おおさか信用金庫との共同研究プロジェクト「北大阪の元気な中小・中堅企業プロジェクト」は、『With/Afterコロナ 大阪の元気な中堅・中小企業』として、追手門学院大学出版会より出版が叶いました。もちろん、2024年7月27日・

28日に開催されました「第50回 茨木フェスティバルは茨木フェスティバル」における大規模アンケートとその分析は、例年同様に『ベンチャービジネス・レビュー 特別号』にて発信しております。

他方、学生研究員も素晴らしい結果を出しております。アプリル(株)福岡伸之 代表取締役を講師とする「ビジネスプランコンテスト対策セミナー」に参加した学生研究員は、(一財)学生サポートセンター主催「第22回 学生ビジネスプランコンテスト」におきまして、アイデア賞を受賞いたしました。また、宮崎研究員・中井研究員らの指導する学生研究員のチームは、商店街活性化の「あくたがわんプロジェクト」を実施し、その成果報告で「OIDAI WIL AWARDS 2024」校友会長賞を受賞しております。

このように、2024年度は極めて実りの多い年であったと感じております。この様な多数の研究・教育の成果を出せたことも、ご協力いただいた企業・自治体・組織の皆様、学生研究員の皆様、所員・研究員の先生方のご尽力の賜物であると感謝しております。ここに、あらためまして、お礼申し上げます。

2025年度は、当研究所の所属しております追手門学院大学は、初の理系学部となります理工学部の設置、総持寺新キャンパスへの大規模移転をおこないます。これらを「第二の開学」と位置づけ、追手門学院大学は、文理融合の総合大学として、まい進する所存です。当研究所におきましても、「ベンチャー企業研究」と「地域企業・自治体との連携」をさらに進化させ取り組むたいと考えております。関係各位の皆様、ご協力のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

Newsletter

追手門学院大学ベンチャービジネス研究所

フジテック杯 第15回追大学生ビジネスプランコンテストを終えて

審査員 経営学部 准教授 長岡 千賀（ベンチャービジネス研究所所員）

1月29日(水)13時から本コンテストの2次審査が開催されました。応募総数80組から厳しい第1次審査を通過した17組が2次審査に臨みました。2次審査で各チームは、自分たちが練りあげてきたプランをわずか6分という短い時間でパワーポイントを用いて発表し、その後審査員との質疑応答を行いました。

評価の観点には、「オリジナル性」、「市場性」、「実現可能性」、「社会貢献性」、「プレゼンテーション力」の5つ。この「プレゼンテーション力」は、発表だけでなく、質疑応答も含む、2次審査の場でなされるすべての表現を評価対象とします。この点は、審査員としては若干の注意が必要でした。なぜなら、「プレゼンテーション賞」とは別に、「質疑応答賞」が設けられているためです。「質疑応答賞」が独立して設けられていることから、本コンテストでは質疑応答を審査の重要な手がかりと考えていることがうかがえます。

今回の2次審査の後には、全体的な講評として、審査員の山口治徳氏（フジテック株式会社 理事 近畿統括本部長）から、プレゼンテーションについてご指摘

がありました。発表と質疑応答では、原稿を読むのではなく、そのときの自分の言葉で話をしてほしい、というご指摘、ご意見でした。確かに、原稿を手に持ち、それを読み上げるスタイルをとるチームが少なくありませんでした。そうした中、原稿を持たずに堂々と発表と質疑応答をしたチームがプレゼンテーション賞を受賞しました。このチームは、発表の冒頭で自らを「しゃべるのが好き」と紹介していましたが、おしゃべり好きだったから受賞したわけではありません。質疑応答時も含めて、自分のプランを人に伝えたい、評価してもらいたいという熱意が伝わったからこそこの受賞です。このことから、おしゃべりが得意でなくても良いプレゼンテーションが可能だと言えるでしょう。プレゼンテーションは、おしゃべりの得意・不得意ではなく、質疑応答を含めて人に伝える練習によって向上するものです。今後、こうした意識を持った応募者が増えることによって、本コンテストのプレゼンテーションの質はますます向上すると期待されます。



審査員の質疑応答



プレゼンテーション賞受賞チームの発表

表彰式の様子



参加チームと審査員の集合写真

第11回 追手門 グッズコンテスト

対面開催

募集期間
2024 5.15(水) ~ 6.24(月)

募集内容

特別部門 淡本市文化・子育て複合施設
一般部門 追手門学院の知名度向上につながる新しいグッズ

賞金

最優秀賞	2万円分	全体より1組
優秀賞	1万円分	各部門より1組
奨励賞	1万円分	各部門1組
奨励賞	5千円分	各部門3組
プレゼンテーション賞	5千円分	全体より1組
質疑応答賞	5千円分	全体より1組
高校生敢闘賞	1万円分	全体より1組

※賞及び副賞は変更になる場合がありますのでご了承ください。

応募資格 追手門学院大学の学生および大阪府内の高校に通う高校生

応募方法 追手門学院大学の学生および大阪府内の高校に通う高校生

応募の詳細はこちら

第11回 追手門 グッズコンテスト

募集要項

本学では、毎年の秋学期期間に「追手門学生ビジネスプランコンテスト」を開催しています。これまで、経営学部を中心に多くの学生に参加してもらい、素晴らしいビジネスプランが発表されています。さらに、素晴らしいことは経営学部に限らず様々な学部からも参加してもらい、より多くの学生に「ビジネス」に対する関心を持ってもらうことです。そのため、ベンチャービジネス研究部では、コンテストを経営学部以外の学生にも身近な内容にして体験できる場を設けます。これによって追手門学生ビジネスプランコンテストへの関心が高まることを期待します。

審査方法とスケジュール

○第1次審査（受付期間）
5/15(水)~6/24(月)

提出された専用の応募用紙を基に審査を行います。

7月初め 第1次審査結果報告
審査を通過した応募者にメールで結果を連絡します。
※追手門学院大学の学生にはOJDAIアプリで表示配信します。

○第2次審査
7/25(金) 13:00~ [対面開催] 追手門学院大学 安威キャンパス
事前作成・提出してもらったPPTによるプレゼンテーションと質疑応答を基に審査します。発表会と第2次審査の後、結果発表と表彰を行います。

募集内容とグッズのテーマ

特別部門 おにクルをもっと好きになるグッズ
(おにクルの顔・機能を利用する人にとって、優待があり、活用が促進され、おにクルをより好きになるグッズ提案)

一般部門 追手門学院の知名度向上につながる新しいグッズ

審査基準 / 第1次審査: グッズアイデア(有用性・宣伝効果・実現可能性)
第2次審査: グッズアイデア、プレゼンテーション能力

審査員 / 本学ベンチャービジネス研究所の所員・研究員・顧問、および外部の有志者より審査委員会を構成して審査。

応募方法・提出先

大学ホームページのイベントの欄にある「第11回追手門グッズコンテストのお知らせ」から専用の「応募ファイル」をダウンロードし、必要事項を記入の上、下記提出先に必要事項を記入の上、応募ファイルを添付して送信してください。

提出期限: 2024年6月24日(月) 23時59分

応募ファイル提出先 <https://ws.formzu.net/dist/S92870568/>
(候補者を記入し、応募用紙のファイルを添付してください)

※ 申込書に添付できる容量は6MBまでです。
※ 応募後すぐに返送される「応募申込書を受け付けました」というメールが30分以内に届かない場合は、緊急連絡先までメールでご連絡ください。(事務局: info_vbk@otemon.ac.jp)
※ 電話やFAX、紙での応募は一切受け付けません。
※ 応募に関する質問や相談はこちらまで: mihiyama@otemon.ac.jp (地域創造学部 廣山)

賞・副賞 (QUOカード)

最優秀賞 (2万円分 全体より1組) おにクル特別賞 (1万円分 特別部門より1組) 優秀賞 (1万円分 各部門1組)
奨励賞 (5千円分 各部門3組) プレゼンテーション賞 (5千円分 全体より1組) 質疑応答賞 (5千円分 全体より1組)
高校生敢闘賞 (1万円分 全体より1組)

※賞及び副賞は変更になる場合がありますのでご了承ください。

その他の注意事項

・応募された全てのアイデアに含まれる知的財産権は追手門学院大学又はおにクル(淡本市)に帰属します。
(アイデアをコンテストとして制作する可能性があります。)
・受賞したグッズアイデアは、応募者による発表を前提に、掲載を公表します。
・審査結果の発表後、著作権や肖像権の内容が判明した場合は受賞資格となります。
・その他、応募に関して、何か不明な点があれば、上記の問合せ先まで、遠慮なく質問してください。

フジテック 杯 第15回 追大 学生ビジネスプラン コンテスト

対面開催

募集期間 (1次審査)
2024 10/3(水) ~ 12/2(月)

ビジネスプラン発表会 (2次審査)
2025 1/29(水) 13:00 ~ 18:00 (予定)

特別部門 多様化する災害に備えるニュービジネス
一般部門 社会に役立つビジネスプラン・アイデア

賞金

最優秀賞	QUOカード 5万円分	1組
フジテック特別賞	QUOカード 3万円分	1組
優秀賞	QUOカード 3万円分	4組
奨励賞	QUOカード 1万円分	4組
質疑応答賞	QUOカード 1万円分	1組
プレゼンテーション賞	QUOカード 1万円分	1組
高校生敢闘賞	図書カード 1万円分	1組

※賞及び副賞は変更になる場合がありますのでご了承ください。

応募資格 近畿2府5県圏内の高校、大阪府下の大学・大学院に通う学生

応募の詳細はこちら

フジテック 杯 第15回 追大 学生ビジネスプラン コンテスト

募集要項

● 趣旨

本学の教育理念(目的)は「独立自強・社会有為」です。その実践経路の一つとして、ベンチャービジネス研究部では、学生による「ビジネスプランの作成と発表」の場を設けます。これによって起業家マインドの醸成と結果の正しいあり方の関心が高まることを期待します。

● 募集テーマ

特別部門: 多様化する災害に備えるニュービジネス
一般部門: ニーズがあるもので供給がなかった、社会に役立つビジネスプラン・アイデア

● 審査方法とスケジュール

(1) 第1次審査: 2024年10月3日(水)~12月2日(月)の間に提出された書類を基に審査を行います。
・審査結果を12月16日にメール・大学HPで通知します。 ※追手門学院大学の学生にはOJDAIアプリで表示配信します。

(2) 第2次審査: 2024年1月29日(水) 13:00-18:00 (予定) [対面開催] [会場: 安威キャンパス 5号館5階]

・事前作成・提出してもらったPPTによるプレゼンテーションと質疑応答を基に審査します。
・発表会と第2次審査の後、結果発表と表彰を行います。

審査基準 / プラン・アイデアのオリジナリティ・市場性・実現可能性・社会貢献性、及び、プレゼンテーション能力。
審査員 / 本学ベンチャービジネス研究所の所員・研究員・顧問、および外部の有志者の中から審査委員会を構成して審査します。

● 応募方法・提出先

① 下記のホームページから申込書をダウンロードし、必要事項を記入

ベンチャービジネス研究所HP <https://www.otemon.ac.jp/research/labo/venture.html>

② 応募フォームに申込書を添付して申込み

募集期間: 2024年10月3日(水)~2024年12月2日(月) 23:59 必着

コンテスト応募フォームURL <https://ws.formzu.net/dist/S16204150/>

※ 申込書に添付できる容量は6MBまでです。
※ 応募する際には、Wordファイルのままお送りください。(PDF等へのアップは不要)

※ 応募後すぐに返送される「応募申込書を受け付けました」というメールが30分以内に届かない場合は、下記お問い合わせ先まで緊急ご連絡ください(メール推奨)。

※ 応募フォームと申込書で記入内容(チーム名・プラン・アイデア)が異なる場合、審査フォームの内容を優先します。で、送付前しっかりと確認してください。

※ 電話やFAX、紙での応募は一切受け付けません。していただきます。また軽微な間違いは事務局で修正場合があります。

※ プラン・アイデア1つにつき応募申込1部が必要です。

● 応募資格

近畿2府5県(大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・三重県・滋賀県・和歌山県) 圏内の高校、大阪府下の大学・大学院に通う学生
(チームまたはグループ(大学生・大学院生)の場合は、追手門学院大学の学生個人か、16名以上の追手門学院大学学生を含むグループ)

・代表者として応募できるのは「1部1チームまで」とします。
・代表者以外ならば、異なる内容のプラン・アイデアのチームに複数参加・応募可能です。
・メンバー構成が同じでもプランごとに違うチームを設けてください。(チーム名は10文字以内)

● 賞と副賞 (予定)

最優秀賞 (QUOカード5万円分 1組) フジテック特別賞 (QUOカード3万円分 1組) 優秀賞 (QUOカード3万円分 4組)
奨励賞 (QUOカード1万円分 4組) 質疑応答賞 (QUOカード1万円分 1組) プレゼンテーション賞 (QUOカード1万円分 1組)
高校生敢闘賞 (図書カード1万円分 1組)

※賞及び副賞は変更になる場合がありますのでご了承ください。

● その他の注意事項

・応募プランの知的財産権は応募者に帰属します。受賞したプランは、応募者による了解を得、掲載を公表します。
・審査結果の発表後、著作権や肖像権の内容が判明した場合は受賞資格となります。応募にあたっては知的財産権等について、第三者の権利の侵害、その他の問題が生じないよう、十分に注意してください。
・その他、応募に関して不明な点がありましたら、下記問合せ先までお問い合わせください。

● お問い合わせ先

追手門学院大学ベンチャービジネス研究所 (研究棟6階603 研究所・センターシアオフィス)
住所 〒567-8502 大阪府茨木市西成2-1-15 / TEL 072-641-7374 / Email info_vbk@otemon.ac.jp

2024年度ベンチャービジネス研究所 経営学部 共催 第11回追手門グッズコンテスト 最終審査結果発表 2024.7.25開催		
※下線のあるメンバーはチーム代表者		
【副賞：QUOカード2万円分】 最優秀賞		
チーム名 靴そろえ隊 (経営学部)	メンバー 安並 涼華・高城 樹仁・高橋 佳利 大西 果林・廣瀬 優樹・森谷 夏帆	グッズ名 靴クリップ 特別部門・おにクル
【副賞：QUOカード1万円分】 おにクル特別賞		
チーム名 寺井皓亮 (経済学部)	メンバー 寺井 皓亮	グッズ名 おにクルのスケッチブック 特別部門・おにクル
【副賞：QUOカード1万円分】 優秀賞		
チーム名 かさっくる (大阪府立槻の木高校)	メンバー 河端 莉央	グッズ名 かさっくる 特別部門・おにクル
チーム名 Creep Hype (経営学部)	メンバー 松井 大和・水谷 颯香・洲上 楓菜 平岡 志織・富森 琉人・中野 叶恋	グッズ名 OIDAI情報しおりルーペ 一般部門・追手門
【副賞：QUOカード5千円分】 奨励賞		
チーム名 けちゃんvol.2 (経営学部)	メンバー 奥 佳子・森岡 美羽	グッズ名 クルもふ! 特別部門・おにクル
チーム名 花粉症 (経営学部)	メンバー 津門 日向実・今石 柚里佳・船越 脩人 増山 裕太・高木 大輝・上村 瞳渚	グッズ名 ティッシュ残量丸わかり 特別部門・おにクル
チーム名 すばいらる (社会学部)	メンバー 関ロ 心査	グッズ名 おにクルにくるくる!ウエットカバー 特別部門・おにクル
チーム名 ドリンク連合 (経営学部)	メンバー 元塚 尋斗・木下 朋香・井川 ふらの 古野 小温・高井 将臣・小谷 美貴	グッズ名 こぼれる心配ご無用ホルダー 一般部門・追手門
チーム名 バックパッカー (経営学部)	メンバー 植ロ 万葉・酒谷 拓矢・上山 鈴葉 棚町 日向・小野 花咲音・山田 悠人	グッズ名 雨と汚れ許さないもん 一般部門・追手門
チーム名 スタディー (経営学部)	メンバー 國友 くるみ・穴吹 龍馬・井澤 佳乃萌 芝本 蓮・池本 菜・崎本 陸	グッズ名 マルチスタディー 一般部門・追手門
【副賞：QUOカード5千円分】 プレゼンテーション賞		
チーム名 けちゃんvol.2 (経営学部)	メンバー 奥 佳子・森岡 美羽	グッズ名 クルもふ! 特別部門・おにクル
【副賞：QUOカード5千円分】 質疑応答賞		
チーム名 花粉症 (経営学部)	メンバー 津門 日向実・今石 柚里佳・船越 脩人 増山 裕太・高木 大輝・上村 瞳渚	グッズ名 ティッシュ残量丸わかり 特別部門・おにクル
【副賞：図書カード1万円分】 高校生敢闘賞		
チーム名 かさっくる (大阪府立槻の木高校)	メンバー 河端 莉央	グッズ名 かさっくる 特別部門・おにクル

ベンチャービジネス研究所・経営学部 共催 フジテック杯 第15回追大 学生ビジネスプランコンテスト 最終審査結果発表 2025.1.29開催		
【副賞：QUOカード5万円分】 最優秀賞		
チーム名	メンバー ※下線はチーム代表者	ビジネスプラン名
くだもの (一般部門)	安並 涼華・大崎 怜希・高橋 佳利 大西 果林・廣瀬 優樹・森谷 夏帆	鹿パイプを果樹の支柱に変えよう
【副賞：QUOカード3万円分】 フジテック特別賞		
ペット防衛 (特別部門)	福元 芳枝・上山 鈴葉・富森 琉人 森田 こころ・河本 陽生	ペットお迎えサービス
【副賞：QUOカード3万円分】 優秀賞		
寺井 皓亮 (一般部門)	寺井 皓亮	Skillufy (スキルフィー)
マネジメント (一般部門)	崎本 陸・安並 涼華・國友 くるみ 井川 ふらの・高井 将臣	スポーツマネージャー代行
ローリングストック (特別部門)	宮崎 大翔・岡本 峻弥 中山 光陽・熊澤 琉星	大阪の置き非常食
ペット防衛 (特別部門)	福元 芳枝・上山 鈴葉・富森 琉人 森田 こころ・河本 陽生	ペットお迎えサービス
【副賞：QUOカード1万円分】 奨励賞		
TRee (一般部門)	乾 仁乃助	アイデア共有&保管アプリ「i-el」
今日は遅刻できない (一般部門)	井澤 佳乃萌・元塚 尋斗・増山 裕太 上村 瞳渚・松井 大和・山田 悠人	遅刻防止保険
ぼうかん (特別部門)	吉野 小温・津門 日向実・芝本 蓮 棚町 日向・小野 花咲音	体験型観光ツアーで防災学習!
愛犬家同盟 (特別部門)	細谷 香穂・中邑 美結・富田 さくら 廣畑 彩花・和田 久希	ワンハート非常食 〜犬にも食べられる非常食〜
【副賞：QUOカード1万円分】 プレゼンテーション賞		
TRee (一般部門)	乾 仁乃助	アイデア共有&保管アプリ「i-el」
【副賞：QUOカード1万円分】 質疑応答賞		
くだもの (一般部門)	安並 涼華・大崎 怜希・高橋 佳利 大西 果林・廣瀬 優樹・森谷 夏帆	鹿パイプを果樹の支柱に変えよう

第11回 追手門グッズコンテスト 最優秀賞 靴そろえ隊「靴クリップ」

高城 樹仁、安並 涼華（経営学部4年）、大西 果林、高橋 佳利（経営学部3年）、廣瀬 優樹、森谷 夏帆（経営学部2年）

「第11回 追手門グッズコンテスト」にて最優秀賞を受賞しましたチーム「靴そろえ隊」の大西果林です。主催いただいたベンチャービジネス研究所の皆さま、審査員の先生方、ご指導いただいた山下克之先生に深く御礼申し上げます。

私たち「靴そろえ隊」は、「おにクル（茨木市文化・子育て複合施設）をもっと好きになるグッズ」というテーマのもとグッズの開発に取り組みました。例えば「好きになる」とは何を意味するのか、その定義づけから議論を重ねました。その過程において「靴を脱ぐエリアに靴箱がない」、「子どもが靴を履き間違える」、「靴の臭いが気になる」といった課題を発見し、これらを解決することで快適に施設を利用して頂き、これまで以上に「おにクル」を「好きになる」のではないかと考えるに至りました。このような思考を繰り返し、グッズの開発に取り組みました。

本グッズは、子どもでも簡単に使える設計にすることで、実用性と親しみやすさを両立させています。企画の前段階で、山下先生から4P分析やSWOT分析などのマーケティングのフレームワークを活用する手法を学び、ターゲット層のニーズや市場調査を実施しました。

また、企業での商品企画の経験を持つ山下先生から「消費者の潜在的なニーズを見極めること」についての重要性の指摘をいただきました。特に「1+1を2ではなく、1+1を3以上にする」、「ただの組み合わせではなく、付加価値をつけることで新たな価値を生み出すべき」という指導は、私たちの考え方を大きく変えました。これらの視点を取り入れたことで、既存の商

品より差別化された商品設計へと発展させることができました。

これらの活動を通じて、教室の授業のみでは得られない社会の現実についてより知ることができました。例えば、子育てにおける課題や地域社会における支援の難しさについて学ぶことができました。そして、課題解決のプロセスを通じては、論理的思考力、批判的視点、創造的発想力を養うことができました。加えて、日頃から山下先生にご指導いただいている「何事にも全力で取り組む姿勢」や「日常のあたりまえを疑うことの大切さ」を改めて実感する機会となりました。これらの経験は、今後の就職活動や大学生活、さらには将来のキャリアにおいて大いに活かせるものであり、貴重な経験になりました。

グッズ化に向けた取り組みでは、茨木市の職員の方にご指導をいただき、より「おにクル」の理念に沿った商品へと進化させることもできました。改めてこのたびの受賞に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



第15回 追大学生ビジネスプランコンテスト 最優秀賞 くだもの「廃パイプを果樹の支柱に変えよう」

大崎 怜希、安並 涼華（経営学部4年）、大西 果林、高橋 佳利（経営学部3年）、廣瀬 優樹、森谷 夏帆（経営学部2年）

「第15回 追大学生ビジネスプランコンテスト」にて最優秀賞と質疑応答賞を受賞いたしましたチーム「くだもの」の安並涼華です。コンテストを運営くださったベンチャービジネス研究所の皆さま、審査員の先生方、ご指導をいただきました山下克之先生に心からの感謝を申し上げます。

コンテストに応募するにあたり私たちのチームは「環境負荷を軽減しつつ持続的に収益性を確保できるビジネスモデル」をテーマと設定いたしました。応募書類の作成段階では、廃棄予定のガスパイプを果樹の支柱として再活用し、新たな市場を創出するというアイデアを考え「どうすればビジネスとして成立するのか」について徹底的に皆で議論しました。特に、競争優位性や収益モデルの設計に重点を置きました。

市場には竹製や木製の支柱がすでに存在していますが、私たちが提案したガスパイプ製の支柱は耐久性が高くメンテナンスの手間が少ないという強みがあります。単なる環境配慮型の商品ではなく、コストパフォーマンスに優れた実用的な商品であり、競争優位性があることを訴求することにしました。

収益モデルを考えるにあたっては、まず、売上原価を変えずに利益を確保する方法を模索しました。具体的には、支柱1本あたり2,000円という価格設定のもと、販路拡大による販売本数の増加を狙う戦略を採用しました。また、廃材活用や自治体との連携による助成金の活用を組み込み、初期投資や運用コストの削減を図ることも組み入れました。

このように準備を進めましたが、学生であり実際のビジネス

に関して経験がなく、不安ばかりでした。しかし、実務経験の豊富な山下先生のサポートのおかげで、多くの課題を乗り越えることができました。例えば、プレゼンテーション資料の作成では、当初の案では「私たちが伝えたいこと」を中心とする、いわばプロダクト・アウト型の内容でした。しかし、先生の指導を受けたことで「どうすれば相手に伝わるのか」をより考えるようになり、事業の流れを繰り返し見直すなかでマーケット・インの視点を取り入れるようになりました。パワーポイント上においても、MECEを意識しよりわかりやすく伝える工夫を重ねた結果、資料の質が飛躍的に向上しました。

ビジネスプランコンテストを通して、私たちは「事業を成長させるための戦略的な視点」と「お客様に寄り添う必要性」を身につけることができました。この経験は、今後、社会人として企業で働く際に大いに活かせるものであり貴重な学びの場となりました。



グッズコンテストおにクル特別賞作品「おにクルのスケッチブック」 グッズとしておにクルで活用準備中



「おにクルのスケッチブック」表紙

第11回追手門グッズコンテスト（2024.7.25開催）で提案発表があった、寺井 皓亮さん（経済学部）が提案した、「おにクルのスケッチブック」について、「茨木市文化・子育て複合施設 おにクル」でグッズとして活用準備中です。

本グッズは、コンテストの特別部門テーマ「おにクルをもっと好きになるグッズ」に応募されたアイデアを元に、寺井さんとおにクル関係者（茨木市市民文化部 共創推進課／おにクル指定管理者 おにクルみらい）と一緒にグッズ化を検討しているものです。スケッチブックには、おにクルを回遊してスケッチするミッションを記載し、2024年11月にオープン1周年を迎えたおにクルの魅力を、来館者に伝える工夫がなされています。表紙のイラストは絵本作家の谷口智則さんによるものです。グッズのお披露目を楽しみにお待ちください!!



考案者の寺井さんの発表風景

学生と企業連携 活動報告2024

経営学部 宮崎 崇将（ベンチャービジネス研究所所員）

ベンチャービジネス研究所にかかわる学生と企業の連携活動として、2024年度は「BluePrint」プロジェクトと「あくたがわん」プロジェクトの2つのプロジェクトに取り組みました。両者とも2023年度の開催された北おおさか信用金庫主催のきたしんビジネスマッチングフェアで相談を受けたことをきっかけに、取り組むこととなりました。また、前年度に引き続き、「茨木フェスティバル」と「きたしんビジネスマッチングフェア」に出展しました。

① BluePrintプロジェクト

BluePrintは有限会社ワコーメタル（摂津市、主に金属加工）と連携し、認知度の低さなどから人材確保の面で苦戦している地域の中小製造業の課題を解決するために中小製造業の情報発信を目的としたプロジェクトです。今年度は、学生が5社を取材して記事を作成し、ワコーメタルが開設したサイト「BluePrint」(<https://wako-metal.com/blueprint>)で公開しました。

また、10月26日にロサヴィア茨木、12月15日に摂津市立別府コミュニティセンターで地域向けにイベントを行いました。

② あくたがわんプロジェクト

あくたがわんは、芥川商店街（高槻市）と連携して、同商店街の活性化を目的としたプロジェクトです。学生が芥川商店街との取材や交流を通して、同商店街を地域の人

にとつての「心のよりどころ」と再認識できるようにというコンセプトで12月7日に「Otemon Christmas Event 2024」としてクリスマスオーナメントづくりのワークショップと福祉アプリ「みまもりあい」を利用したデジタルスタンプラリーを内容としたイベントを実施しました。地域の親子連れを中心に約60名に参加してもらうことができました。

本プロジェクトは、追手門学院大学のWILチャレンジに採用され、WILアワード（2月18日開催）で発表し、校友会長賞に選ばれました。

③ 茨木フェスティバルへの出展

今年度も茨木商工会議所と共同で7月27・28日に茨木フェスティバルに出展し、茨木市民アンケートを実施しました。宮崎所員のゼミ学生たちが、アンケートの収集と、市民アンケートに協力してくれた来場者にお菓子すくいをしてもらいました。2日間で1,058件の回答を得ることができました。

④ きたしんマッチングフェアへの出展

北おおさか信用金庫主催の「きたしんビジネスマッチングフェア」（11月6・7日開催、マイドームおおさか）に本学研究企画課が出展する産学連携ブースに、産学連携プロジェクトに取り組む宮崎所員のゼミ学生2名が参加しました。来場者に産学連携プロジェクトに関する活動を紹介しました。



BluePrint での取材風景



茨木フェスティバルの様子



あくたがわんプロジェクトの様子



マッチングフェアでの出展

2024年度ベンチャービジネス研究所 所長・所員・研究員・顧問一覧

役 職	氏 名	所 属 等
所 長	村上 喜郁	経営学部教授
所 員	穴田 貴大	経営学部特任助教
所 員	池内 博一	法学部准教授
所 員	池田 信寛	経営学部教授
所 員	石盛 真徳	経営学部教授
所 員	稲葉 哲	地域創造学部専任講師
所 員	井上 秀一	経営学部准教授
所 員	岡崎 利美	経営学部准教授
所 員	佐藤 敦信	地域創造学部准教授
所 員	中井 郷之	地域創造学部准教授
所 員	長岡 千賀	経営学部准教授
所 員	中西 通雄	経営学部教授
所 員	中野 統英	経営学部教授
所 員	朴 修賢	経営学部教授
所 員	葉山 幹恭	地域創造学部准教授

役 職	氏 名	所 属 等
所 員	平尾 盛史	経営学部専任講師
所 員	堀竹 学	法学部教授
所 員	水野 浩児	経営学部教授
所 員	宮崎 崇将	経営学部准教授
所 員	安本 宗春	地域創造学部准教授
所 員	山下 克之	経営学部教授
所 員	李 建	経営学部教授
研究員	梶原 晃	久留米大学文学部教授
研究員	村田 崇暢	大阪大谷大学専任講師
顧 問	金森喜久男	一般社団法人 情報セキュリティ 関西研究所代表理事 パナソニック株式会社客員
顧 問	木田 洋一	一般社団法人 広報支援機構理事 岩井コスモ証券監査役 毎日放送顧問
顧 問	合田 順一	茨木商工会議所会頭
顧 問	寺本 博美	三重中京大学名誉教授

2025.1.1現在

◆所員・研究員の募集

① 所員・研究員の募集（教員）

ベンチャービジネス研究所の活動にご参加いただける教員（所員・研究員）を募集しております。
ベンチャービジネスや事業承継についての調査研究活動・出版等の事業を実施しています。入所希望の方は事務局までご連絡ください。

② 学生研究員の募集

ベンチャービジネス研究所主催の企画や事業にご参加いただける学生研究員を募集しております。

- ・ビジネスプランの企画やプレゼンテーションなどについて学ぶ研究会
- ・北摂地域の魅力を発信するプロジェクト
- ・アイデアグッズやビジネスプランのコンテスト

その他さまざまなイベントを実施しています。

ベンチャービジネス、地域貢献などに興味のある方はぜひご参加ください。先生方からも学生にお声かけください。

Newsletter vol. 27

■ 編集・発行 2025年3月31日 印刷
2025年3月31日 発行

■ 編集代表者 村 上 喜 郁

■ 印 刷 所 川西軽印刷株式会社

■ 発 行 所 追手門学院大学 ベンチャービジネス研究所
〒567-8620 茨木市太田東芝町1-1
TEL/072(665)9217 (研究所・センター窓口)
E-mail: ventureb@otemon.ac.jp
<http://www.otemon.ac.jp/research/labo/venture/>